

事務連絡  
令和5年12月15日

会員各位

熊本市歯科医師会  
(医療管理委員会扱い)

## 熊本市歯科後方支援病院連絡協議会からのお知らせ

骨吸収抑制剤 低用量（BP製剤、デノスマブなど）投与患者さんへの対応について

### ① 原則的に抜歯時には休薬しない

骨粗鬆症にてBP製剤（内服、注射）やデノスマブ（プラリア注射）などを投与されている患者さんが増えています。2019年2月に熊本県内の口腔外科専門医による統一指針が出され、抜歯などの歯科的外科処置をする際には、原則的に休薬せずに行うことが明記されました。さらに、2023年7月発表された顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023には、“原則として抜歯についての休薬はしないことを推奨する”と書かれています。

### ② 抜歯は可能であれば一般歯科医院（自院）で行う

骨粗鬆症にて骨吸収抑制剤投与中の患者さんの抜歯については、投与の状況、期間などを確認の上、感染に気を付けてできるだけ自院で行ってください。抜歯必要な歯を抜かずに残しておくことで発症リスクが高まります。抜歯後の経過が悪い場合、抜歯の難易度が高い場合、すでに顎骨壊死を発症している可能性が高い場合は、二次、三次医療機関へ紹介してください。

抜歯した先生に対して、顎骨壊死発症についての責任が問われることはありません。

### \* がん骨転移に投与される高用量デノスマブ（ランマーク®注射）について

ランマーク®に関しては、顎骨壊死の発症率が高くなっていますので、ランマーク®投与前に医科から紹介された場合は、しっかり口腔評価をして、投与前に抜歯等の外科処置を行い、継続した口腔機能管理をすることが望ましいです。また、歯肉の炎症や骨露出を起こした場合は速やかに、二次、三次医療機関へご紹介してください。

### \* 顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023を手元に置いておく。

日本口腔外科学会ホームページより“顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023”の全文37頁がPDFにて印刷可能です。是非読んでいただき、手元に置いてください。

(2024年2月10日(土)熊本大学病院(一部Web併催)にて、第9回熊本県歯科口腔外科学研修会が開催され、17時より中山教授によるポジションペーパー2023の解説があります。)  
本会HP会員のページ「12月発送物」に詳細な内容を掲載しています。